GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2013/4/26	大学生からの国際協力 ～学生NPO立ち上げ、民間企業経由、青年海外協力隊へ～	中野貴之氏 （2008年埼玉大学理学部卒業）	JICA埼玉デスク 国際協力推進員	今回は埼玉大学出身、現在はJICAで活躍なさっている中野さんがお話をしに来てくださいました。お話の内容は主に自己の体験した東ティモール支援についてでした。私自身は東ティモールについての知識はほぼゼロであっただけでなく、NPOなどの知識も胸を張って豊富だとは言えないのですごく新鮮なお話をたくさん聞けて良かったと感じています。具体的には、中野さんの所属していたサークルによる東ティモールのとある地域への文房具などの寄付、現地でたまたま居合わせた日本人の方のお話、自分達の大きなプロジェクト、そして現地の学生のお話をしていただきました。中野さんらは、学生では長期休み以外では東ティモールに行くことができないことを悩み、とある行動を起こしたそうです。これに私は衝撃を受けました。サークルでは補助金などが出ないので、自分たちのサークルをNPO法人に変えてしまったそうです。どれだけ大変なことであるのかを詳しく知っているほど私には知識はありませんが、相当な苦労と覚悟があったはずです。まず、行動を起こすことがどれくらい大切なことであるかを学びました。また、私事ですが、現地の学生のお話を聞き、現在開発について学んでいる教育学部生としてやはり開発途上国で教員をやるべきだと感じました。日本学生は教科書から文房具から、何から何まで勉強環境が整っているにも関わらず勉強意欲が欠けすぎていると改めて感じました。それに比べ、東ティモールの学生はものすごく意欲があると聞き、意欲がある学生が質の良い教育を受けられないことはやはり不当であると感じました。そこで私は、自分が質の良い授業を展開できる教員になり、東ティモールのような開発途上国で教員をしたいと今回強く感じました。 （GY4期生　廣瀬直）
2013/1/23	貧困問題と震災復興に取り組むカリブの国ハイチ～専門家活動を通して感じたこと	結城亞津子氏	JICA　債権管理部 専門嘱託 （元JICAハイチ派遣専門家）	今回来てくださった結城さんのお話を聞いていて、自分は確かにハイチがどこにある国なのかを知っているだけであったり、少し前に地震があった国という認識しかありませんでした。ハイチには貧困問題は考えたことがなく、それに対する援助についても考えたことがありませんでした。また、ハイチに実際に行ってみないと分からないであろう事、例えば選挙の日に朝から集まり、お祭り騒ぎのようになるが、一票の重さを分かっているのか定かでないという事などを聞くことができ、とてもよかったと思います。 結城さんの専門家(援助調整)としての活動のお話を聞いて、そのような仕事があったのかと思いました。援助調整や仕事として情報収集の仕事が多く、それには情報収集能力だけでなく、高いレベルの語学力が必要だという事を聞いて大変な仕事なんだと思いました。他にも埼玉に教育研修来日したハイチの方の、教育意識に関する話や地震に関する話を聞くことができ、よかったです。今回聞くことのできた話をこれからの大学での勉強やその他の生活の中で活かしていきたいと思います。 （GY4期生 関田一磨）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/12/17	インターンシップ報告 実施先：JICAインド事務所	林　和岐さん	埼玉大学　教養学部 4年 （GY1期生）	今回のセミナーでは、教養学部4年生の林さんによるJICAインド事務所インターンシップについての報告がされた。 まず、インターンシップ中に受けたインドに対する印象の紹介があった。インド人は本当にカレーをよく食べること、ターバンをつけているのは主にスィク教で、実際のところインド人の8割がヒンドゥ教、1割がイスラム教であり、あまりターバンをつけている人を見ないこと、インドで使われている英語が聞き取りづらいことなどがあった。私は、これらのことを聴いて、やはり文化というものは実際に現地に出向かないと理解できるものではないしそこでの困難つまりカルチャーショックをじかに感じることはできないのだなと思った。 インターンシップでは、仕事よりも訪問活動が多かったそうで、一つとして、ヤムナ川流域諸都市下水道処理場見学の紹介があった。インドでは、都市部に人口が密集しているが各家庭に浄化槽がなかったり、死体を川に流す習慣があったりと川の水質が汚染されている。一方で、ヒンドゥ教では沐浴の習慣があるなど、川の水によって健康に問題がある。そこで、ヤムナ川流域諸都市下水道処理場が建設されている。報告では、写真が多く使用されていて実際の現場がとてもわかりやすかった。印象に残ったのは、女性が現場にとても多く、その女性の子どもが現場で遊んでいる姿であった。日本では、女性が建設現場にいることはとてもまれでインドと日本の社会構造の違いがあることを感じた。また、下水道処理場のまわりはあまり整備されてはいないようであった。インターンシップの間で通った道路の写真もあり、とても大きくきれいな道路ではあまり車が走ってないのに対して、道路の整備がしっかりと進んでいないところほど渋滞が起こっているということが写っていた。この写真をみて、援助は、必ずしも現地の方々のニーズに合致しているとは限らず、本当のニーズを見極めることが肝心なことであるのだと感じた。 インターンシップでの二つ目の活動として、ASHAでの活動が報告されていた。ASHAは幅広い活動をしていて、農業に関する活動、女性の地位向上への活動、教育関係の活動、医療に関する活動などをしている。ASHA の活動報告のまとめで林さんが、ASHAは、持続可能な状態にする為の後継者の育成に主眼を置いているが、後継者となれる人が不足しているということを話していた。私は、このことは、開発の現場においてキーワードになるようなことであると感じた。持続可能な状態にするための後継者の育成に主眼を置くということは、援助が終了したあとでも、自力で生活を支えることができるようになり、地域自体が活性化することにつながるし、学んだ技術を応用することもいずれ可能になっていくのではないかと思う。後継者となれる人が不足しているということは、大きな問題であり、援助をするときの課題になると考える。そのほかにも、林さんによって、援助における問題提起がなされていた。その中には、実際の現場でしかわからないような、文化的側面を持つ問題が多くあり、このことが援助を難しくし、発展の妨げにもなっているのだと考えた。発展途上国では、その国における文化的なことが社会にとても強く反映されていることが多く、そのことが援助をより難しいものにすることがあるということを改めて感じることができた。 （GY4期生　石井有希）
2012/11/28	インターンシップ報告 実施先：JAC Recruitment （インドネシア）	原　さつき　さん	埼玉大学　経済学部 4年 （GY1期生）	原さんは今回のセミナーで自身のインターンシップで得られたこと、また気付かされたことを一生懸命に伝えようという姿勢で臨んでいるのに私自身とても感心させられました。セミナーが始まる前にもお話を聞かせていただいたのですが、出来るだけこれから海外に留学やインターンシップに向かっていく私たちにとって役に立つことを一生懸命に話そうとしてくれていたのが印象的でした。私は原さんによるお話を聞いている中で、原さんの外国と関わりを持ちたい、新しいものを作り出したいという思いがひしひしと伝わってきました。GYプログラムとは別に、フィリピンにも自主的にインターンシップに行くなど積極的に行動し、自分にとって見習うべきことだなと感じさせられました。フィリピンでも、インドネシアのJACでのインターンシップでも、原さんは自身のイメージとの乖離に戸惑っていましたが、そんな状況の中でも自分を見つめ直し、外国で自分が目指すものを改めて考えていました。インドネシアの親日感情が経済に影響を及ぼしているというお話がありましたが、経済学部の自分にとって大変興味深いお話でした。また、インターン先で出会った人々のお話を聞くと、人との出会いの大切さを改めて噛み締めることが出来ました。 （GY4期生　程原秀明）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/11/19	インターンシップ報告 実施先：JICAベトナム事務所	五十嵐祐樹さん	埼玉大学　経済学部 4年 （GY1期生）	セミナーに参加する前に私はベトナムに対するイメージとして持っていたのは、異常なほどまで大量のバイクが街中を走っているイメージでした。あの交通量は事故が起こった時に危険だなと思うこともありましたが、今回その改善の取り組みに関することが聞けて勉強になりました。 今回大きく二つのことに関して、まずは交通量が多いとのことでハノイ市内環状3号線とニャッタン橋の工事、次に北西部地域農村部開発プロジェクトについてお話がありました。いろいろお話がありましたが、その中でも特に気になったのは人材教育の面でした。道路を整備はもちろんですが、利用する人々に対するマナーの指導ですとか技術指導、援助が終わった後にも現地の人々自身で継続できるようにすることも重要であるとのことでした。指導の上ではベトナム人は勤勉でありますが日本とは違い仕事の時間が終わったら終わりにして残業などはしないといったことや生活スタイルの違いも受け入れて支援を進める必要があるのだなと思いました。また、五十嵐さんは経済学部生ということで専門分野とは違った分野であったために少し戸惑いがあったようにお話しされていた印象を受けましたが、私にはそれ以前に専門的な知識がないので自分の得意な分野を持つことは大事であると再確認させられもしました。今回のセミナーでは、現地の状況をしっかり認識したうえでの支援と、支援の基礎となる学習する意欲の必要性を感じました。私も2年後か3年後にうまくいけばインターンシップに行くことになりますが、そのために少しずつ準備していきたいです。 （GY4期生　山形和史）
2012/11/6	インターンシップ報告 実施先：V-shesh*（インド） *障害者等の就職を支援する社会起業	佐藤拓馬さん 藤岡春　さん	埼玉大学　教養学部 3年 （GY2期生）	今回は、佐藤さんと藤岡さんのインドにあるV-SHESHでのインターンシップのお話を伺う事ができました。このV-SHESHは、利益追求に加え社会的問題を解決する事を目的とした社会起業家によって設立されたそうです。ここでは主に、障害者や弱い立場の人々に英語や計算、パソコンの使い方などを教えることによってソフトスキルの向上を図り、そして彼らに雇用の機会を提供していると知りました。良質の人材を送り出す点で、彼らのみならず社会全体にも良い影響をもたらし、まさに一石二鳥だと思いました。また、「なぜNGOという形態を取らないのかというと、利益のために最善を尽くすから」というのを聞いて、シンプルで驚きました。確かに、充実したプランを提供しなければ顧客が減って経営者側も生き残れません。だから、対象となる顧客のことを考えたきめ細やかなサービス提供に全力を注ぐことができるのだと思いました。 主な仕事の内容は、日本企業とコンタクトをとり交渉をして雇用先の拡大を試みることです。同じ日本人であるため、安心感や信頼感があるといった理由で任されたそうです。それでも、企業の人に上手く連絡が繋がらなかったこともあるそうで、苦労もしたのだと思いました。他には、Loyola Collegeでのテスト実施のお手伝いや、St. Louis Collegeでの絵本の読み聞かせのお手伝いなどをしたそうです。これらを通して、ハンディキャップを感じさせない元気に活動する素直な子供たちを見て、励まされ感動したそうです。私もその話を聞いたとき、その子供たちがイメージでき心が温かくなりました。そして、この経験を通して感じたことや学んだことは、仕事の大切さ、文化の違い、人との出会いの大切さであるとお二方は話してくれました。やはり、環境が異なる途上国でのインターンシップは想像以上に大変だったと思いますが、だからこそ得られるものも大きいのだとしみじみと伝わってきました。頭の中の理屈だけ終わらせるのではなく、肌で感じ本質的な部分の理解を深めていくという点で、途上国でのインターンシップは大変意義のあるものだと思いました。 私も、人との出会いを大切にし、外国でのインターンシップの機会が得られたら、積極的に学んで十二分に吸収していきたいと思いました。 （GY4期生　川嶋久美子）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/10/24	インターンシップ報告 実施先：曙ブレーキ（インドネシア）	帯津裕一　さん	埼玉大学　経済学部 3年 （GY2期生）	今回のグローバルユースBBセミナーでは、帯津さんのインドネシアにある曙ブレーキグループ子会社（PT. Akebono Brake Astra Indonesia）でのインターンシップについてのお話を伺うことが出来ました。曙ブレーキさんは自動車や鉄道・航空機・オートバイなどで使われるディスクブレーキやドラムブレーキという部品やそれらに関連する諸部品の製造、だけでなく新製品の構想、開発も行なっているそうです。そのなかでも帯津さんは実際に人事課の一員として、実務を行い工場の視察、会議に参加して実際に発言するなど他の社員の人々と変わらずに仕事をしていらっしゃいました。その会社では実際に勤務している従業員数が2000人いる中で日本人社員はわずか11人しかいなかったそうです。そのような周りに日本人が少ない中でも帯津さんは実際に会社を改善するために具体的な提案を考えて発表するということがあったとおっしゃっていました。インターンシップを終えた帯津さんが全体から感じた事としておっしゃっていたことがありました。 「専門的な知識は前提としては必要なく、その仕事を行う中で身につければいいのだとは感じました。むしろ私がこのインターンシップにおいて、海外で仕事をする中で一番大事、必要だと思ったのは相手とコミュニケーションを取るための言語能力、そして一緒に仕事をする国・相手の文化・習慣を尊重し、理解することだと思いました。」 将来自分が留学・海外勤務など日本の外でいろいろな物事に挑戦する際には、まず専門性というものが大事だと思っていましたが、実際にこのお話を聞いてまず自分に必要なのは自分の意見を考え発表する力、そしてそれを正しく異言語でも伝える能力、そして行った先の国についての知識や教養でありそれを一生懸命学んで行かなければならないと決心しました。 （GY4期生　中村未来王）
2012/10/17	インターンシップ報告 実施先：日本工営（ベトナム） 全国水環境管理能力向上プロジェクト	栗原菜月　さん	埼玉大学　経済学部 4年 （GY1期生）	今回の栗原さんのベトナムでのインターンシップ報告では、私がまだ知らない発展途上国の現状を知ることができた。栗原さんは日本工営株式会社というコンサルタント会社のベトナム国全国水環境管理能力向上プロジェクトに参加されたそうで、プロジェクトでの発見や難しさなどたくさんのことをお聞きすることができた。 まず、異文化という点に関して実際に体験した人のお話はとても興味深かった。ベトナムは社会主義国であるから国営企業が多いということは知っていたが、この事実が水質汚染対策の取り組みに関係してくるということまでは考えつかなかった。 また仕事に対する考え方も違うそうで、シエスタに代表されるような異なる価値観や時間の使い方も実際に一緒に仕事をするとなると大変なようである。 仕事の報告では考えさせられることがたくさんあった。栗原さんが参加されたのは水環境における人材育成や能力の向上を目的とするプロジェクトだと聞いて、私は水質調査や下水道建設などの指導を行うようなイメージを持った。しかしそのプロジェクトの中には水質汚染情報を管理するためのパソコンソフトウェアの使い方の指導という情報分野の指導もあり、一つの問題を解決するにも様々な分野の指導を行うことの必要性があることに気付くことができた。栗原さんが紹介なさっていた写真の中には、排水パイプがむき出しの工場の写真があり、そのパイプのすぐそばには川が流れていた。排水が川に流れていることは明らかであり、プロジェクトに取り組むなかでもいまだにこのような状況が残っていることに、問題解決への難しさを感じた。 そして栗原さんは最後に、海外で働くために必要だと感じたことについて話してくださった。一つめに専門的な知識。異文化をもつ人々と一緒に仕事をしていくためには、その分野での専門的な知識を持っていることが信頼につながるそうだ。二つめに協調性。異文化の中で仕事をするには柔軟性やコミュニケーション能力は一層必要だと私も思う。三つめに自己管理能力。海外で働くということはそれなりのスキルをもっているということであるから、仕事も任される部分が多いらしい。はじめの専門的知識は大学で徐々に学んでいくとして、他の二つは今からでも伸ばしていける部分だと思うので、今から努力をしていきたい。 栗原さんのお話から、発展途上国の現状を垣間見ることができた。まだ先の話ではあるが、留学、インターンシップ、そして社会に出た後のためにも、実際に体験した人から、発展途上国の現状を聞く機会を持ちたいと思った。そして自分でも発展途上国の現状について日々考えていこうと思う。 （GY4期生　武井紗也子）

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/7/2	プラネットファイナンスジャパンの活動について　-マイクロファイナンスをすべての国に-	田中和夫　氏 広瀬大地　氏	NPO法人プラネットファイナンスジャパン	今回のBBSではプラネットファイナンスという団体の方のお話を伺った。プラネットファイナンスは途上国のマイクロファイナンスを支援する国際NGOである。マイクロファイナンスとは貧困者や低所得者向けの小規模金融のことであり、金融サービスにアクセスできないそのような人々に資金を提供するようなサービスのことである。今回の機会でプラネットファイナンスの活動のことばかりでなく、マイクロファイナンスの活動についても多くお聞きすることが出来た。 日本ではほとんどの人が何かしらの企業に雇われ、給料を得ているが、世界の7割ほどの人々はSelf-employment（自営業）であり、自分の稼ぎがそのまま所得になる。しかし、売るものの需要、数量によって収入は安定せず、貧困に悩まされている人々であると生活に困ってしまうことが多々ある。そんな人々を支援するのがマイクロファイナンスであり、そのマイクロファイナンスを支援するのがプラネットファイナンスということである。 また、プラネットファイナンスの活動を一部説明していただいた。活動内容の一例として、パキスタンにおける新商品開発及び職員育成のニーズの調査を9か月にわたって行い、技術支援のニーズを特定し、人材育成の研修ニーズに基づいた研修カリキュラムを提案するなどの活動を行っていたことを挙げる。また、プラネットファイナンスの理事長であるジャック・アタリ氏が日本の大学で講義を行ったり、UMPF（大学生・社会人に向けたプラネットファイナンスの研修プログラム）を行ったり、ミンダナオ島における零細農民救済プロジェクトを行ったとのことである。 また、世界各国で行っている活動によってつくられたグローバルなネットワークと、マイクロファイナンスの知見を活かし、2011年に起きた東日本大震災の被災地支援活動も実施しているとのことである。アメリカの緊急援助団体メーシーコープと協力して小規模事業者を支援したり、フランス財団及びフランスロシュフォール商工会議所などより得た支援により三陸のカキ産地の復興支援を行ったり、多くの活動を行っている。今後は南アフリカの新興農家の資金ニーズを調査する予定であるなど、世界に向けて活発に支援や活動を行っている団体である。 マイクロファイナンスについて、学校で受けている授業で知る機会があったが、グラミン銀行など有名なものしか知らなかったので、そのようなマイクロファイナンスを支援するNGOがあるということをこの機会に知ることが出来て良かった。また、多くの分野で活動しており、現状を良く知っているであろう団体の事務局長という重要な立場にいる人から話を聞くことが出来る数少ない機会を享受することが出来てうれしく思う。 プラネットファイナンスが行っている活動の中で1番気にかかったのは、ミンダナオ島における零細農民の金融アクセス改善プロジェクトである。ミンダナオ島について他の授業で聞いたことがあるためだ。この地域では職を探すことが難しいらしく、離れた地域に出稼ぎに行く子供が親に仕送りをしてなんとか生活を送っているという世帯もあるという。そのように貧困に悩まされている零細農民のニーズを設計したり、家計管理のための金融リテラシートレーニングを行ったりすることで、彼らのような人々でも子供と離れて暮らすことなく生活が出来るようになるといいと感じた。 また、このようなNGOの活動は日本国内ではなく他の発展途上国で行われるものと思っていたので、東日本大震災の支援を行っているということに少し驚いた。しかし、世界各国と繋がるような支援を行っている団体だからこそ、他国と日本の中継を担うことができるのだと納得した。様々な国が日本のために義捐金を送ってくれたことはもちろん知っていたが、このようにNGO団体の活動へ支援金を集めることによるような日本への支援も行ってくれていたのだと知ることが出来て良かったと思う。今回は田中さん、広瀬さんに様々なお話をしていただき、またその話を聞くことが出来て大変勉強になった。自分でももっと詳しくマイクロファイナンスのこと、マイクロファイナンスを支援している人々のことを調べてみようと感じた。 （GY3期生：加瀬智美） 今回のBBセミナーでは、NPO法人プラネットファイナンスジャパンの活動について、このNPO法人の事務局長である田中さんと広瀬さんからお話を伺いました。プラネットファイナンスの事業は、主にマイクロファイナンス機関の能力強化の支援です。マイクロファイナンスについて、これまでの本学の授業でも取り上げられたこともあり、自分も大まかには理解していました。そして、今回パキスタンやフィリピンでプロジェクトを行っているという当事者であるお2人の、いわば現場の声を聞いて、マイクロファイナンスについての理解をより深めることができたと同時に、少しではあるもののマイクロファイナンスを身近なものとして、捉えられたように感じた、というのが今回の自分の率直な感想です。また、アメリカやフランスの団体がプラネットジャパンを通じて、東日本大震災の被災地の復興支援を行っているということを聞いた時には、暖かい気持ちになりました。 （GY3期生：佐藤智亜樹）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/6/27	インターンシップ報告 ～ ワシントンで見たこと、感じた事～	若林祐貴子 さん	埼玉大学　教養学部　4年 （GY1期生）	この度、講演してくださった方が参加されたインターンシップは、教育の側面が強く、本当に有意義な経験をされたのだなと感じました。特に、社会で活躍するリーダー達や世界中から集まる優秀な学生達の交流というプログラムにとても魅力を感じ、私もできれば参加したいものだと心から思います。若林先輩の話で最も印象に残ったのは、異国の地でも立派に活躍している日本人が多くいるという話でした。私はGYプログラムの学生として、今まで多くの米国式教育、欧米の価値観に触れる機会が多々ありました。誰しも感じることかもしれませんが、私はその中で日本式の物の考え方にむしろ違和感を抱くようになり、日本人はこれからの国際社会を生き抜いていけるのか疑問を抱くようになりました。しかし、若林先輩の話の通り、米国でも頭角を現している日本人も多くいることは事実です。他の人種にはない日本人の強さも必ずあると思います。それが具体的に何なのかは不明瞭ですが、若林先輩のように外国に出てみて気づかされる事もあるのだと思います。 （GY3期生：守屋邦昭） 今回は、GY1期生の若林さんからインターンのお話を伺いました。若林さんのお話を聴いて、私は多くの外国人と接することの重要さを実感しました。若林さんは外国の人と接する中で、他の国の人たちのモチベーションの高さにとても刺激を受けたそうです。「日本の学生は内向きだ」というお話を伺ったという話や、若林さんの感じた「日本大丈夫？」というお話を聴きながら、「このまま日本は世界においていかれてしまうのかな」ととても不安になりました。「英語ができる日本人より、日本語ができる外国人を採用したいと考えている企業がある」というお話を聴いたとき、私たち学生はこのまま現状に甘えていてはいけないと実感しました。私はGY生の1人として、これから留学やインターンシップに行きます。与えてもらったこの機会を絶対に無駄にせず、将来日本に、また世界に貢献できる1人になりたいです。 （GY3期生：杉平ほのみ）
2012/6/7	国際NGOプランジャパンの活動について-途上国の子どもと築く未来-	佐藤活朗　氏	公益財団法人プランジャパン	今回のBBセミナーでは、国際NGOプランジャパンの活動についてお話をして頂きました。私は、開発途上国への支援と聞くと、どうしても学校建設などのハード面の支援が真っ先に思い浮かべられ、その後についてはあまり関心がありませんでした。しかし、「人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもたちが能力を最大限に発揮できる世界を実現する。」との目標を掲げるプランはその実現のため、むしろ地域住民、特に子どもたちに対する、トレーニングや習慣改善などのソフト面での支援を重視しているようでした。たしかに、地域の自立には、短期間の支援と箱物の提供だけでは不十分で、継続的な地域参加型の支援が必要であると思いました。 （GY3期生：長谷部和彦）
2012/4/26	平和構築について考える ～JICAスリランカ事務所でのインターンシップを終えて～	鈴木友里　さん	埼玉大学　教養学部　4年 （GY1期生）	宮尾先生がおっしゃっていたように、私も平和構築を漠然と、大きい機関が取り組むもので、私個人ではどうにもならないものだととらえていた。そのため鈴木さんの「平和構築は地に足をつけた活動の中で行われる」という言葉はより印象的で、これから私が学ぼうとしている開発援助についても同じことが言えるのではないかと思った。 また、灌漑施設が整備されていく段階の順を追った写真を見て、実際は途上国や途上国の発展は想像よりはるかに身近にあるもののように感じた。私も世界で起こっている問題を身近な問題だと自分で感じ、自分のすべきことを見つけるために、途上国を含め多くの国を訪れたいと思う。 （GY3期生：諏訪茜）
2012/1/18	マーシャルってどんな国 ～ごみ処理事業から分かること～	大塚康治　氏	JICA海外シニアボランティア	私が最も印象深かったのは、日本とマーシャルのゴミ組成比較です。マーシャルは国内に産業がないので、日用品のほとんどを海外からの輸入に頼っています。さらにごみ処理設備が不十分なため、包装紙などのごみが次々と海へ投げ捨てられているそうです。輸入品の値段が高いので現地の人々が日用品を買うことが出来ないという現実にも衝撃を受けました。また、草木がごみに占める割合が最も高く、次にその他のカテゴリーが続いており、ごみ分別の曖昧さ、意識の低さを感じました。 一方、日本は、残飯の占める割合が40パーセントにもなっており、日本がいかに裕福で、食べ物を粗末にしているかを考えさせられました。このような途上国が抱える問題は、先進国の影響によるものがほとんどだと思います。途上国のガバナンスを確立させ、現地の人々が最低限の生活を送れるように援助し、自立させることが先進国の責任だと感じました。 （GY3期生：芳賀佳奈子）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2012/1/10	学生のうちにすべきこと ～一つ、途上国ネパールに行って感じること～	塚田太一　氏 東 敬介　氏 高 頭慧　氏 鈴木良壽　氏	埼玉大学　教育学部 3年	今回は、ネパールに行った複数の学生の方々からそこで体験して、感じたことについて聞くことができました。同じ学生という目線だったので外国・異文化というものをより身近に感じられました。みなさんのお話を伺って、何か挑戦するとき必ずしも決まった理由が必要なわけではないということを感じました。そして失敗を恐れず、最初の一を踏み出すことが大事だということがわかりました。様々なことに挑戦したり体験したりすることは学生のうちにしかできないことであり、こういった経験は一生の宝になると思います。同じ国へいって同じような体験をしていても感じることは人それぞれであり、受け止め方も違います。今日伺ったお話を参考に私も自分にとっての「学生のうちにすべきこと」を考えたいと思いました。 （GY3期生：齋藤芽吹） 今回のBBセミナーのテーマは、「学生のうちにすべきこと　～一つ、途上国ネパールに行って感じること～」でした。教育学部の塚田太一さんをはじめとした七人の方が、各々のネパール体験記を話しました。自分は、チョフさんの講演会を聞いたことがあるのでネパールの現状はあらかじめ知っていましたが、各々の皆さんの体験してきたことというのはチョフさんのそれとは違っていました。お話してくださった皆さん全員に共通していたことは、「動き出さなければ何も変わらない」ということです。これを胸に刻んでこれから生きていきたいです。 （GY3期生：田中健一）
2011/12/14	JANICと日本のNGOの活動	富野岳士　氏	国際協力NGOセンター（JANIC）	今回は、国際協力NGOセンターのほうで活躍されている富野さんのほうから主にJANICの活動内容についてのお話を伺いました。今回の話を聞いて感じたことは、次の二点です。 一つは、日本のNGOの利点が実践の現場でフルに生かされているのだなと実感できたことです。今年の3.11の地震の際に、国境なき医師団日本などのNGOが被災地の支援救助のために迅速にかつ柔軟に対応したということで、日ごろから国内外問わず広く対応してきた経験と事前の資金源がうまく機能しているなと感じました。 二つ目としては、NGOの資金面でのことがあります。日本のNGOの中には1億円を超える寄付金を受けている団体もあるというお話でしたが、海外と比べるとまだまだ十分に豊かに寄付金があるというわけではないので、もっと日本国内に寄付の習慣が広く社会に浸透していくことが不可欠であるという風に感じました。 （GY3期生：菊地匠）
2011/11/28	グラミン銀行でのインターンシップの経験を通して	小口毅史　さん	埼玉大学　経済学部　3年（GY1期生）	バングラデッシュというと、人口が一億人を超えていて、イスラム教であり、発展途上国だという認識がありました。実際にその通りなのですが、バングラデッシュの人たちがどのくらいの経済で生活していて、そこにグラミン銀行がどう関わっているのかよくわかりませんでした。というよりむしろ、僕はグラミン銀行すら知りませんでした。グラミン銀行は主に農村の人たちに対して低金利無担保で融資を行っているらしく、バングラデッシュ全体の経済発展の一端を担っているらしいです。僕は最初、経済的に厳しい状況にある人たちは融資を受けるのは難しいのではないかと思っていたのですが、グラミン銀行はそんな人たちでも融資を行っているので驚きました。グラミン銀行も一企業なので利益を追求しなければならないと思うのですが、それを一番にするのではなく、経済的弱者を助けるという理念を持っているところが素晴らしいと思います。 僕は始め小口さんはGYのインターンシップでグラミン銀行に行ったのだと思っていたのですが、実際は自分で申し込んでインターンシップに行ったと聞いて驚きました。僕も小口さんのような行動力をもって挑戦していきたいと思います。 （GY3期生：多笛大暉）
2011/11/11	日本のユネスコスクール・ネットワークの展開とESD	小林亮　氏	玉川大学教育学部	ユネスコスクールは、教育の国際協力による平和実現を図り、1935年に設立された共同体である。日本においては現在308もの学校が加盟し、4つの基本的学習テーマに沿った教育を実践している。近年重点が置かれているのは、EFA（万人のための教育）とESD(持続発展教育)である。前者は識字率と教育の普及、後者は学際的にあらゆる面から持続可能な社会を築く人材の育成を目的とする。具体的には、日韓合同で「米」を通じアジア太平洋地域での多文化理解・交流を図る（RICE Project）などの活動が実践されている。また、今後の活動に おいては、地域や国家や生徒と学校を繋ぐ「仲介者」の育成が課題である。以上のセミナーから、私は教育の重要性を非常に実感した。基本的教養を身に着け、独自の判断が行えなければ、真の幸福は得られないと思う。 （GY3期生：関塚あゆ香）

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2011/11/7	UNDPの役割と活動	西郡俊哉　氏	UNDP東京事務所	私は今までUNDPという名称は聞いたことはあっても、どのような機関で、何をしているのか、はっきりとはわかっていませんでした。けれど、講師の方に分かりやすく説明していただいたおかげで、国連の中の組織の一つであること、開発支援を総合的に行っていく世界一のネットワークを持つ機関であるということを知ることができました。一番興味深かったことは、貧困を削減するための活動のみならず、その国の民主制を守る活動、危機予防や復興、環境を守るため持続可能なエネルギーの開発もするなど、幅広い分野で活動をしていることです。UNDPがあるからこそ、他の組織もスムーズに活動できるのだということもよく理解することができるいい機会でした。 （GY3期生：田中里佳子）
2011/10/24	開発途上国における廃棄物問題：スリランカにおける事例研究	川本健　氏	埼玉大学 工学部　教授	ゴミが山奥や川辺に投棄されている状況を知って、ゴミ処理場の建設についての法整備や投資、技術支援だけでなく、投棄が不衛生であるという保健指導の必要性も感じた。日本人ならば所定外の場所にゴミを捨てるのは非道徳的と考えるだろう。このように知識面、精神面からもこの問題の解決が望めるのではないだろうか。このゴミ処理問題は様々な要因が重なってこのような状態になっているので、解決策は一つではない。また社会問題は多面的に考えなければ解決できない、一筋縄にはいかないものである。今回のセミナーでは社会問題が複雑怪奇であるということを改めて実感した。 （GY3期生：渋下輝）
2011/10/17	ニジェールでの活動から考える、学校ってなんだろう	山田真依子氏	海外青年協力隊OB	私がニジェールの現状を聞いて驚いたことは、女子の結婚する年齢層です。日本では恋愛したり、自分の好きなことができる時期であるのに、親が決めた相手と結婚しなければならないのです。それで幸せになれるのならよいが、必ずしも幸せにはなりえないと思います。やはり将来への選択肢を広げてあげることが子供たちにとって重要で、それには教育改革をすることが大事だと思いました。職能制を採用するなどの対策を講じ、本当に学びたいと思っている子供たちだけでもちゃんと学べる環境を作っていくべきです。そのように将来への選択肢を増やしていくことで、結婚しか考えていない子供たちにも学習意欲を持たせることができると思いました。 （GY3期生：寺田悟士）
2011/7/5	気候変動対策支援 － ベトナムの事例 －	森睦也　氏	国際協力機構　企画部次長	セミナーの感想は2011年10月17日開催分より掲載を開始しました。
2011/6/30	貧困者の市場への参加と援助協力による支援—西アフリカ仏語圏の事例から—	上江洲佐代子氏	政策研究大学院大学 開発フォーラム・プロジェクト 研究助手	
2011/6/17	地熱発電の開発と国際協力	金子正彦　氏	西日本技術開発株式会社 執行役員兼東京事務所長	
2011/4/26	もしも埼玉大学の学生がネパールのボランティアで学んだら	古谷祐輔　氏	教育学部４年生	
2010/1/24	政府開発援助（ODA） ～現在の課題、今後の展望～	植野篤志　氏	外務省 国際協力局政策課長	
2011/1/19	情報通信技術(ICT)を活用した農村貧困削減の取り組み　−バングラデシュのケース−	Ashir Ahmed氏	九州大学　高等研究院 社会情報基盤構築　特別准教授	
2010/12/13	An Introduction to Pakistan	Qazi Asif Nawaz　氏	埼玉大学　理工学研究科	

GY Brown-bag Seminar

Date	講演タイトル	講演者	所属 等	セミナーの感想（GY生）
2010/11/24	バングラデシュ初等理数科教育支援の現場から	二宮裕之　氏	埼玉大学 教育学部数学教育講座 准教授	セミナーの感想は2011年10月17日開催分より 掲載を開始しました。
2010/11/8	母なる港・モロッコ －シニア海外ボランティアの２年間－	樋口暁子　氏	元蓮田市長	
2010/10/27	ODAにおける漁村開発支援について	寺島裕晃　氏	アイ・シー・ネット株式会社 代表取締役	
2010/10/15	青年海外協力隊という選択 －ウズベキスタンでの活動を例に－	新川美佐絵氏	JICA埼玉デスク　国際協力推進員	
2011/6/21	Student life in China and in the USA	Bizhan Zhumagali氏 Wang Shaoting氏	University of Maryland, USA Wuhan University, China	
2010/6/7	アジア開発銀行の組織と業務の動向について	日向俊一　氏	アジア開発銀行駐日代表事務所 次席	
2010/5/20	アフガニスタンは『破綻国家』か？	福田幸正　氏	（財）国際通貨研究所　開発調査部 主任研究員	
2010/5/10	私の国際協力 －ブラジルでの経験から－	磯田昇　氏	JICA地球ひろば 埼玉県地域国際協力サポーター	
2010/4/21	浦和レッズの草の根国際交流	白戸秀和　氏	浦和レッズ　社長補佐	
2010/4/15	世界銀行の過去、現在、未来	小川和子 氏	世界銀行 ヨーロッパ・中央アジア地域局 Senior Country Officer	